



アイルランド・ダブリンの路上に現れた、足を滑らせたら落ちてしまいそうな氷の割れ目。世界各地で3Dトリックアートを手掛けるエドガー・ミュラーが描いた作品「ザ・クレヴァス」(本誌表紙)だ。チョークやペイントを使い、約5日間かけて仕上げた。
令和3年度版中学校教科書『美術2・3』の「あれ? どうなっているの」(P.20-21)には、この作品が大きく掲載されています。



←「ザ・クレヴァス」の制作過程を撮影した動画が、こちらからご覧いただけます。
この動画は、新版教科書『美術2・3』のP.20左下に掲載されているQRコードからも視聴できます。

ア ト リ エ 訪 問

第 17 回

エドガー・ミュラー

ストリート・アーティスト

世界中の路上が、
彼にとってのアトリエであり、キャンバスだ。
とはいえ、画材などを保管しておく創作拠点は故郷のドイツにある。
訪ねると、愛犬「ウヴェ」とともに、笑顔で迎えてくれた。

文章 浦江由美子 撮影 山田梨詠





溶岩をまとった怪人が出現。
部屋の中にも、
3Dアートを描いている。



角度を変えて見てみると、
トリックが浮かび上がる。

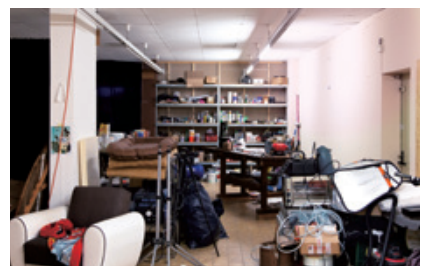


上／輪郭を描く際に使うチョークは、
ミューラーさんが自ら手作りしている。
下／手作りのチョーク。
色別にきちんと並べられている。

ライン川とモーゼル川の合流する街、コブレンツから車で30分、由緒ある温泉地バート・エムスに、エドガー・ミューラーさんは拠点を構える。凹凸のある地形を好み、15年前にこの土地に移ったという。目抜き通りにある元スーパーマーケットの店舗が、現在の拠点だ。

——トリックアートに取り組もうと思ったきっかけは何でしょうか。

ミューラー 小さいころから絵を描くのが好きで、16歳で正統派の絵画



元スーパーマーケットの店舗を活用した創作拠点は約200平方メートルあり、広々としている。

その瞬間を楽しむ。結果ではない

を習い始めました。そして、作風を模索している内に、ルネサンススタイルのストリート・アートを手がけるクルト・ヴェナー氏を知って、「これだ!」と思いました。外で描いていると、見ている人からエネルギーもらえる。緊張感のある、とてもダイレクトなパフォーマンスです。——どのようにモチーフを選んでいるのですか。

ミューラー 植物、水、溶岩といっ

た、その場に立って危機感や恐怖心、錯覚を覚えるような自然のモチーフを選んでいきます。

大きな作品は最初の2平方メートルくらいが大変。チョークで輪郭を描いた後、小さな筆から最後はモップも使って、アクリル・ペイントで彩色します。現場を見てから何を描くのかを考えることもありますね。気候変動は大きなテーマでもあるので、今使っているペイントから、もっとエコロジカルなほかの素材を探しているところです。

——「ザ・クレヴァス」(本誌表紙)はどんな心境のときに作られたのでしょうか。

ミューラー 実は友人とけんかをしたときの、心の中の氷の状態を表現したのです。完成までは、とにかく大変でした。制作時のダブリンは強風の中、1日に3〜4回も雨が降った

ので、描いた部分が濡れないようカバーで覆うという繰り返しのマラソンのような作業でした。それが1週間続いて、緊張でほとんど寝られなかった。何があっても完成させるという自分の気持ちを汲んで、5人のボランティアが手伝ってくれました。——作品を見た人たちの反応はどうでしたか。

ミューラー 作業中は気を遣って話しかけてこない場合が多いですが、休憩時には「すばらしい」と声をかけてくれる。アーティストは誰かにメッセージが届くことが喜びですが、私の場合、見てくれた人から直接ポジティブな身体のエネルギーを感じることも喜びの一つ。「その瞬間を楽しむ」という、パフォーマンスとか演劇に近い行為かもしれません。1か月もすれば消えてしまうはかなさもありますけどね。

私の仕事は閉ざされた美術館の中ではなく、偶然、街中に居合わせた人が見ることができるため、いろいろな国に行って人々の驚きや感動を知ることが楽しいですね。社会のもつ緊張感、異なるメンタリティーを知ること、ジェスチャーを見ること——結果ではなく、同時性なのです。——「ザ・クレヴァス」は、中学校の新版教科書に掲載されています。美術を学んでいる日本の中学生にメッセージはありますか。



ミューラー SNS全盛の今の時代、なかなか難しいことだけど、人と比べないことがクリエイティブでいる秘けつ。経験や年齢、有名人などに嫉妬したり、羨ましがめることは良くないエネルギーです。自我に固執しすぎずに、自分で何がしたいか、そしてできあがった自分の作品に批判的であることも重要です。——これから、チャレンジしたいことはありますか。

ミューラー バート・エムスは少し寂れた温泉地ですが、8月にレガッタのフェスティバルがあり、観光客が大勢訪れます。この時期に世界中で知り合ったストリート・アートの仲間を招待して、作品紹介ができたらいいなと、今動いているところです。あとは、想像もつかない反応がありそうな、例えばロシアの田舎とかで作品を制作してみたいですね。

エドガー・ミューラー
1968年、ドイツのミュールハイム・アン・デア・ルール生まれ。高校時代、通学途中の路上で見たストリートアートに魅了され、16歳でストリートアートの国際コンクールに出場。その後、コミュニケーションデザインを学び、25歳からストリートアートに専念。現在は、世界を飛び回り、各地の路上に通行人が思わず驚く3Dアートを描いている。